

活動報告書

団体名：NPO相模原こもれび

活動場所	近郊緑地特別保存地区「木もれびの森」活動地		記録者	白川 泰嗣
活動日時	令和6年1月24日（水）9時00分～12時00分	天気	晴れ 7.6℃	
参加者	浅川、安達、伊藤、江成、開沼、黒岩、白川、田村、西原、平野、藤井、本田、松浦、目黒（一）、目黒（奈）			計15名
活動内容	森林保全活動			
使用道具	擬木杭、カケヤ（木槌）、ロープ、けん引ロープ、ウインチ、クサビ、手鋸、ナタ			
機器操作者	刈払機		チェーンソー	
	—		安達、黒岩	
区域	B地区、H地区みんなの森			
作業内容	①散策路の杭打ち、②小径雑木の伐木、③ホダ木の採取			



折角植樹した苗を切り倒すことになったが →右へ続く



萌芽更新させて、次の樹木を育てていきたい



手鋸で枝払い（剪定）して、良質なホダ木を得る



生木の搬出にも、資材搬送車が大活躍した

次回の予定：定例活動9:00～

2月3日（土）イヌシデ広場集合

2月10日（土）イヌシデ広場集合

2月18日（日）イヌシデ広場集合

イベント：

4月20日（土）2024年度通常総会

☆ボランティア募集・経験不問☆

第1土曜、2土曜、3日曜、4水曜の中から好きな日の午前に参加可。活動日の朝9:00前に長袖で来て下さい。

報告事項・トピックス

●木もれびの森は、かつて薪や炭を得るために利用され定期的に伐採と切り株からの萌芽（ぼうが）による再生で里山として維持管理されてきたが、化石燃料による燃料革命後はほとんど利用されぬまま放置されてしまった。

●H地区の森を再生するために2011年と2013年に植樹したコナラやクヌギがホダ木に適する径にまで成長したので、資源を循環活用するために萌芽更新を行った。残した小径木に対しては、手鋸で枝払いも行った。

●若齢のコナラには高い萌芽能力があり、萌芽は根株の養分を利用できるのでどんぐりの堅果からの実生に比べ約5倍も初期成長が速いとされ、二酸化炭素の固定能力にも優れる。限られた作業力での効率化も追求したい。以上